平成２３年（２０１１年）１０月１５日　第２９号

しどういん

発行
厚木市青少年指導員
連絡協議会
編集　広報部会
厚木市中町１-１-３
ＴＥＬ ２２５-２５８０

やっと晴れた　東日本大震災復興支援
第１４回少年少女フェスティバル

各地区の出し物

☆コリントゲーム（厚木北地区）☆空気砲（厚木南地区）
☆紙ブーメラン（依知北地区）☆まんげきょう（依知南地区）
☆かざぐるま（睦合北地区）☆竹ぶえ（睦合南・睦合西地区）
☆輪ゴム鉄砲（荻野地区）☆ゴリゴリプロペラ（小鮎地区）
☆プラトンボ（玉川地区）☆スーパー竹とんぼ（森の里地区）
☆しおり（南毛利地区）☆水てっぽう（相川地区）
☆ジェット機（緑ケ丘地区）☆民芸風一輪ざし（南毛利南地区）

関係団体の出し物

☆クラフト　こま　マスコット（ボーイ・ガールスカウト）
☆缶バッチ（ジュニアリーダーズクラブ）
☆折り紙・くるみボタンの髪飾り（母親クラブ）

どれもみんな楽しいそうな手作りおもちゃ

■ペットボトル空気砲作り■
厚木南地区　北川・幸田

厚木南では、昨年に引き続き「ペットボトル空気砲」を作りました。ペットボトルの下部を切り取り、そこに風船をかぶせテープで固定するという簡単な構造ですが、そこから出る空気の威力は想像以上であります。

製作にあたり、子ども達は先ず様々な形のペットボトルの中から好きなものを選びます。

次に、風船の色やテープの色をそれぞれ選び自分だけの世界に一つしかない空気砲を作り出します。そして、空気砲を的に向け空気を出すと、完成した喜びとその迫力にびっくりする子どもの顔がとても印象に残りました。

ちょっと難しいけど
おもしろそうだなぁ

■進化し続ける
平成の水てっぽう■
相川地区　石井　幹夫

水鉄砲は、ローテクでありながら、実は奥の深い古典玩具です。相川地区では、この古典玩具を平成の「水てっぽう」と名付け、毎年進化させてきました。

今年は、押し棒の先端のゴム板を、ボンド付けからねじ止めに変更し、接合部を強化させました。

フェスティバル当日は、主役のジュニアリーダー六人、指導員七人が一体となり、一九三組の親子に、平成の水てっぽうづくりを教えました。絶えることなく訪れる親子連れに、うれしい悲鳴を上げながら、共に汗を流し、とても充実した時間を共有することができました。

今後も、充実した時間を共有する中で、平成の水てっぽうだけでなく、ジュニアリーダーと私たち指導員共々、進化し続けます。

■青少年保護育成条例改正に伴う青少年指導員に期待すること■
子ども未来部部長　霜島　宏美

青少年指導員は、市内一五公民館区から選任された一一〇人が、神奈川県知事、厚木市長から委嘱を受け二年任期で活動しています。主な活動は、選出された公民館区において青少年健全育成関係団体とともに青少年の健全育成の推進に取り組まれています。

また、連絡協議会の活動として、部会活動や厚木中央公園などで行われる少年少女フェスティバルをはじめ、子ども達に係わるイベントの企画、実施に寄与され、深く感謝申し上げます。

さて、今年の四月に「社会全体で青少年を守り・支え・育てよう」と、神奈川県青少年保護育成条例が全面的に改正されました。この条例は、青少年の健全な育成を阻害するおそれのある行為を防止することを目的に昭和三〇年に制定され、以降、いくたびかの改正を経て、主に規制的手法により青少年を守ってきました。

しかしながら、近年の都市化、核家族化、情報化等の進展に伴い、ライフスタイルや保護者の意識変化、地域の人間関係の希薄化が指摘されるなど、青少年を取り巻く環境は制定当時と大きく変化しています。

こうしたことから、保護対象者の拡大や基本理念の制定、青少年を取り巻く関係者の基本的な責務が設けられ、関係者の連携、協力を支援することが明記されるなど、青少年の健全育成を社会全体で取り組むとともに、新たに生じた課題に対応するために、青少年指導員の委嘱や活動についての位置づけが条例に規定されました。

今回の条例改正により、青少年の健全育成について時代に合わせた見直しがされたわけですが、併せて、青少年指導員の活動内容が様々な規定として明記されたことから、青少年指導員の皆様の取り組みも今まで以上に注目されることでしょう。

青少年指導員の地道な活動は、地域で必要不可欠と言えます。中でも、人間関係の希薄化などの問題は、地域行事に参加する大人と子どもが係わることで解消されていきますが、さらに、青少年指導員が日々の活動において係わりを進めれば、より一層青少年の健全育成につながると考えます。

青少年の健全育成は、短期間で実を結ぶものではありませんし、継続的に活動を続けることが大切です。これからも青少年指導員の皆様が中心となり、関係団体との連携の下、各地域において青少年の健全育成が活発に展開され、皆様が様々な場面で活躍されることを期待しております。

■リスペクト■
青少年指導員連絡協議会会長　堀田　哲郎

少年少女フェスティバルをはじめとする諸事業を大きな問題も無く進めることができましたことは、青少年指導員一人ひとりが自分のやるべきことをしっかりと実行した結果であり、関係諸団体からのご支援ご協力、加えて行政のご指導のたまものであると感謝申し上げます。

こども未来部からの文章にもありますとおり昭和三〇年に制定され、数々の改訂を加えてきた青少年保護育成条例がここで大きく改訂され、我々青少年指導員に関しても明確に規定されました。

我々には「青少年を地域で育成する仕組みづくりをする」ことが期待されています。したがってそこに向かって努力をしなければなりません。委嘱を受けた責任と義務がより重く感じられます。

しかしながら、愛情を持って子ども達の成長を願うといった活動の基本は変わりません。ボランティアの中では法律がどのように変わろうとも芯となる精神は不変であると思います。一人ひとりの子ども個々の性格、性質を否定せず、指導者も子ども達自身もお互いに違う部分をも尊敬(Respect)しあい、高めあっていくこと。それが成長であり育成であると思います。

子ども達のために最適化を積極的に実施し、より良い組織を構築していきましょう。

■野外指導者養成講習会■
体育部会長　早川　宏一

六月一八日、今年度は例年とは若干趣を変え、活動のはばを広げる道具作りとして、ピザ釜造りにトライしてみました。ドラム缶を加工するだけでピザ釜に早変わり、青少年指導員の男性は皆釜造りに加わり、ドラム缶を二本使い二釜が完成しました。

早速できたばかりの釜を使用してのピザ作り。生地から作り上げる本格的なものです。出来映えは笑顔満開でした。

今回の講習会での作成ノウハウを各地区に持って帰って釜造りをしていただければ、野外でのお楽しみアイテムが一つ増える様に思います。味は保証付き、子ども達の笑顔が見える様です。

来年度はさらに釜数を増やし、ゆくゆくは本格的なレンガを使った釜作りを計画しています。

また、苦心の大作ピザ釜は七沢弁天の森キャンプ場に置いてあります。来場された皆さんに是非お楽しみアイテムとして使用して頂きたいと思います。

火花を散らして作成中！

■作り続けて十三年■
小鮎地区　堀田　哲郎

割りばしをキラキラテープで飾り、針金を巻き、プロペラを釘に刺し取り付ければ「ゴリゴリプロペラ」の完成です。篠竹でこすると回り出す、この不思議が売り物です。ですから遊んでみないと面白さが伝わらない、ここが欠点です。

実演販売かくありきといわんばかりの客引きにつられて入るお客様たちに、いかに不思議さと楽しさを伝えるかが腕の見せ所です。

マンネリ化を防ぐためにプロペラデザインは新案を毎年加えていますが、新しいものが好まれるようです。ということは、リピーターが多いということです。

ゴリゴリプロペラという名前を聞いただけで子ども達の頭にイメージができるようにこれからも情宣活動に努めていきます。

■子ども達の笑顔■
南毛利地区　佐藤　学

南毛利地区は、「しおり」作りを行いました。

あらかじめ動物の絵や乗り物の絵が描かれてある紙に色をぬったり、好きな絵を描いたり、写真やシールを貼り付けるなどしてラミネートでパックします。そして穴を開けてお気に入りのリボンをつけたら出来上がりです。

ラミネートのパックには、不思議な機械を使います。入り口側にそっと置くと機械に吸い込まれ消えてしまいます。子どもに「どこにいったのかな？」と尋ねると不安そうに機械を覗き込みますが、間もなくパックされたしおりがゆっくりと出てくると、ほっとした顔をして嬉しそうに笑っていました。

子ども達とたくさんお話が出来て、たくさんの笑顔が見られた一日でした。

あゆころちゃん　かわいいね

■頼もしい　ジュニアリーダー達■
依知南地区　鈴木　和人

依知南地区では今年も「万華鏡作り」を行いました。毎年好評で、テントの前には行列ができるほどの盛況でした。今年は一緒に活動するジュニアリーダーが「万華鏡作り」を通じて子ども達と交流し、そして物づくりの楽しさをどのように教えられるのかを期待していました。

高校一年生を中心にそれぞれが力を発揮し、幼児から中学生までの子ども達に、ものづくりの楽しさをキチンと伝えることができたと感じました。特に小さい子どもにはついつい手を出してしまいがちですが、ジュニアリーダーは子ども達が出来るところまで待っていて、その後にまた正しく教えるという姿勢ができていました。

「うわー！きれい！」の一言に教える喜びを感じ、満足気なジュニアリーダー達でした。

■自慢の手作りおもちゃ■
玉川地区　三橋　正巳

「プラトンボ」は竹とんぼの羽をプラスチックにしたもので、小さい子どもでもはさみを使う事ができれば簡単に作成できます。羽となるプラスチックは、硬さのある事務ファイルを使いますが、ファイルは廃材を使用しているのでコストがかからず多くの子ども達に作って遊んでもらう事ができます。軸になる棒は竹串を使い、羽の大きさは5㎝、高さは20㎝と小さくとても軽いので、すぐに飛ばして遊ぶ事ができます。

プラトンボが高く高く飛ぶように羽に角度を付けたり、手を切らないように紙やすりで面を整えます。上手に飛ばす事ができた子ども達は満面の笑みで「ありがとう」と言ってくれます。空中に漂うように飛ぶプラトンボ、玉川地区自慢の手作りおもちゃです。

おねえちゃん　上手だね

■子ども達の笑顔に触れて■
厚木北地区　大内　政彦

「コリントゲーム」は、小さな子ども達にとって少し難しい作品です。板に絵を描くことから始まり、金づちを使ってビー玉がうまく通るよう幅を考えながら釘を打っていきます。この工作過程は一度にいろいろな体験が出来るので、完成すると達成感もわき、楽しんでもらったのではないでしょうか。

ジュニアリーダー・指導員共に普段接する事が少ない小さな子ども達との触れ合いは、今後の活動に大きく活かされてくると思います

被災地の子ども達にも楽しんでもらえるように、コリントゲームを作り、送ってくれたジュニアリーダーに感謝致します。

また、イベントに遊びに来てくれた子ども達の多くの笑顔にも癒された一日でした。

■手作りの輪ゴム鉄砲　命中度は？■
荻野地区　鈴木　秀幸

「当たった！」

的に当たった瞬間、子ども達に思わず笑顔が浮かびました。自分だけのオンリーワンの「輪ゴム鉄砲」の完成です。

荻野地区では、日常生活の中で誰もが手にする輪ゴムと割りばしを利用して、物作りの楽しさを体験してもらいました。

カッターナイフで割りばしを切るのにちょっと手こずっていた子もいましたが、親子で協力しあって工作している姿はとても微笑ましい光景でした。

また、ジュニアリーダー達もブースの設営や工作指導のお手伝いだけでなく、「あゆコロちゃん」の着ぐるみに身をつつみ、会場で愛嬌を振りまいて子ども達も大喜びでした。

■男の子の好きな紙ブーメラン■
依知北地区　三橋　智和

今年の「少年少女フェスティバル」は、数年ぶりに晴れ、屋外での開催となりました。依知北地区の出し物は、「紙ブーメラン」です。風が強く吹き、屋内のようには、なかなかうまく飛びませんでした。

しかし、子ども達が大勢来てくれたおかげで、開店から一時間くらいでメインの厚紙が無くなるほど盛況でした。特に男の子は、「飛ばす」おもちゃは大好きなようです。ブーメランを作る際も、クーピーペンシルなどで、きれいに装飾できるので、子ども達は、とても楽しそうでした。

来年もいろいろな種類の「紙ブーメラン」を作りたいと思います。

■スーパー竹とんぼ作り■
森の里地区　徳田　勝彦

森の里地区は、「スーパー竹とんぼ」作りを行いました。のこぎり・ナイフ・やすりを使って竹を加工していきます。最近の子ども達はあまり使わない道具です。

はじめのうちは危なっかしい手つきで格闘しますが、丁寧に竹の削り方を教えてあげると、おっかなびっくりしながらも、やがてうまく削れるようになります。

力作の竹とんぼを空高く飛ばし、笑顔で「飛んだ！」と叫ぶ様子を見ていると、教えて良かったと感じます。子どもでも作りやすいように、道具や削り方に工夫を加えた森の里のスーパー竹とんぼです。

これからも子ども達と一緒に空高く飛んでくれることと思います。

■先輩指導員に感謝■
睦合西・南地区　曲渕　貴子

私達睦合南・睦合西の合同地区は今年も「竹笛」を作りました。

私達の地区は睦合西公民館が新しくできて、一昨年から二地区に分かれることになりましたが、今でもお互いの地区の催事には協力し合って活動しています。

私は今年が二回目の少年少女フェスティバルの参加でした。竹笛は昨年も作りましたが、一年ぶりの制作でしたので、当日なかなか音が出なくて悪戦苦闘していると、周りの先輩方が「もう少し竹を薄くしてみたら？」「もう少し穴が大きいほうがいいんじゃない？」と自然とアドバイスをくれて無事に音が出る笛を作ることができました。

私達の地区は指導員みんな仲がとても良いと思います。

新人を優しく見守り助けてくれる先輩指導員が多いのでとても活動しやすいと感謝しています。

いい音　するかなあ

■一輪ざしのプレゼント■
南毛利南地区　久保　勝寿

私にとっては初めての中央公園での開催、他地区のコーナーも覗き易く、新鮮な感じがしました。

南毛利南地区では今年度も「民芸風一輪ざし」を作りました。「父の日のプレゼントにいかがですか」と呼び掛けると、くすくす笑いながらも、多くの子ども達がコーナーに立ち寄ってくれました。ストローで丸めた折り紙をコーヒー缶に貼り付けていくと、きれいな一輪ざしのでき上がり、お父さん達は喜んでくれたでしょうか。

日差しの強い一日でしたが、全てを片付け終えた直後に大雨運の良い一日でした。

来年度はもっと多くの子ども達に楽しんでもらえるよう、新たな出し物を考える予定です。

すてきな一輪ざしができたよ

■ジェット機■
緑ヶ丘地区　本間　弥士夫

今年度も雨天だと四年連続でヤングコミュニティセンターでの開催となるところでしたが、当日は雨の心配もなく厚木中央公園で開催できたことは何よりでした。ただ風が強くて砂埃がひどく、水まきに時間をとられたり、準備途中の本部テントが風で倒れたりするなど、幾つかのハプニングもありました。

緑ヶ丘地区の出し物は「ジェット機」です。ハサミを使うため、小さな子どもは母親に手伝ってもらい作品を作っていました。

■ジュニアリーダーの活躍■
睦合北地区　圓子　由弘

当日は、堀田会長の久しぶりの晴れ宣言と、東日本大震災に被災された方々への黙とう、また各地区の作品を被災地に贈るという事で始まりました。

睦合北地区は、「かざぐるま」の作り方を教えることです。子どものころから慣れ親しんだかざぐるま、それでいていざというとなかなか上手に作れません。

今年はジュニアリーダー達が積極的に参加して、子どもの目線で丁寧に教えていました。「まわしてみて・」「まわらないよ・」「きつく締めたから上手くまわらないんだよね・」「あ、まわったよ！」お互いのやりとりをそばで見ていて、子どもに一生懸命教えて、そして出来上がりを一緒に喜んでいるジュニアリーダーに改めて感心し、感動しました。心強いジュニアリーダーが私達の自慢です。

風車　はやくまわしたいな